

予算特別委員会での審査を報告します

2020年度予算に賛成

後藤ゆう子

かとう涼子

ここを評価しました!

防災機能を備えた泉小わくわく公園の開園

CHECK! 2015年3月に閉校となった泉小学校跡地に開園された、泉小わくわく公園。地域の強い要望もあり、防災備蓄倉庫、かまどベンチ、災害用マンホールトイレ、震災用井戸等の防災機能を多数備えています。災害時に適切な使用ができるよう、防災訓練を行うことを以前より要望していましたが、今後公園の指定管理者と協力し行う考えがあることがわかりました。

地域活動のさらなる活性化に期待!

CHECK! まちづくりの担い手となる市民を育て、サロンやカフェの立ち上げをサポートしてきた地域福祉コーディネーターが、1圏域1名体制から2名体制へと倍増しました。地域におけるつながりの希薄化が課題とされる中、市民協働のさらなる活性化と、風通しのよい地域づくりが促進することを期待します。

改善を求めました!

学校給食における地場産野菜の使用割合

CHECK! 第3次食育推進基本計画で、学校給食における地場産物の使用割合の目標値は30%ですが、ここ数年、使用率は9%台と低迷しています。新鮮、旬がわかる、生産者の顔が見え、交流ができるなど地産地消のメリットはたくさんあります。農家にとっても売れ行きが天候に左右される庭先販売より安定した供給先であり、子ども達のためというやりがいもあります。産業振興課とも連携し協力農家を増やすなど、使用率の向上を求めました。

不要不急の無電柱化事業は凍結を!

CHECK! 巨額な税金を投じて行われる、道路の無電柱化事業。歩行空間に課題の多い「府中道」での実現を求めてきました。ところが市は、「武蔵境通り～きらっと」までを優先検討区間に定めたとのこと。危険な道路を差し置いて、なぜ庁舎前の道路を優先するのか? 財政難の折、不要不急の事業の見直しを求めました。

その他の質問 一般廃棄物処理手数料の見直し/男女平等参画推進委員会/アースデーと環境フェスティバル/集団回収実施団体数の推移/ふれあい収集の利用状況の推移/女性の働き方サポート推進事業拠点/めぐみちゃんメニュー認定事業/給食残菜量/学校施設管理者謝金 ほか

その他の質問 新型コロナウイルスの影響に伴う指定管理者・委託事業者への影響/小中学校の長期休校措置に伴うのどかの対応/「対話による美術鑑賞」の予算減額/住宅セーフティネットと居住支援/不登校に関する教育相談/学校の適正規模・適正配置 ほか

後藤ゆう子の

3月議会の代表質問から

◎ゼロエミッション東京戦略と連携し 気候危機に直ちに立ち向かえ!

災害レベルの猛暑といった気候変動による影響が大きくなっています。2019年12月東京都は2050年にCO2排出実質ゼロに貢献する「ゼロエミッション東京戦略」を策定しました。この中には3Rの推進、プラスチック対策、食品ロス対策などに具体的な取り組みやロードマップ、数値目標が掲げられています。この分野では後れを取っている市に対し、直ちに都と連携し取り組むことを要望しました。

かとう涼子の

3月議会の関連質問から

◎いまこそ、市民活動を応援する まちづくりを!

公共施設が老朽化する中、公共施設の再編計画が今年度策定されます。「『人もまちも健康』を目指す。そのために社会参加を促す受け皿をつくりたい」とする丸山市長ですが、「公共施設は総量抑制する」と、相反する方針を掲げています。これでは、市民が不安になるのも当然のこと。活動の場を強引に整理縮小すれば、地域はやせ細る一方です。市長は責任をもって、「社会参加の受け皿づくり」を具体化すべきと訴えました。